ゴッホの原点　オランダ風景画展　―ハーグ派の画家たち―

Reflections of Holland：The Hague School and Barbizon
会場：福井県立美術館
会期：2014 年 7 月 11 日（金）～8 月 24 日（日）

バルビゾンの 森
オランダの 光
― ゴッホ とともに 福井へ ―

19 世紀後半のオランダで、ポスト印象主義の画家ゴッホが「大物(マストドン)」とよんだ画家たちがいました。彼らは活動の拠点であった都市の名にちなんで「ハーグ派」とよばれていました。

「ハーグ派」は、屋外での直接の自然観察をもとに、原野や森、小川や池といったあるがままの自然、農村風景や農民の慎ましい生活を清新な表現でとらえました。その作品からは自然への温かな眼差しが感じられます。

彼らはオランダ美術の伝統に加え、フランスのバルビゾン派の作品も熱心に学びました。バルビゾン派はハーグ派に先行して戸外でスケッチし、田園や農村の風景を描いていました。ハーグ派の画家たちは、バルビゾン派を手本としながらオランダの風景を鋭敏な感覚で描き、後に続く画家たちに影響を与えました。

ゴッホとモンドリアンは、フランスを中心に展開する西洋のモダニズムのなかでも特異な位置を占めていますが、画業の初期にハーグ派から大きな影響を受けていました。彼らの作品を通じて、西洋モダニズム芸術の源泉のひとつをこのオランダ・ハーグ派に見出すことができます。

本展は、ハーグ派を日本で初めて主題的に紹介する展覧会です。オランダのハーグ市立美術館、クレラー=ミュラー美術館の他、国内に所蔵されるバルビゾン派やゴッホの作品も含めた約 70 点を展観いたします。

【主な展示作品】

第 1 章－バルビゾン派

19 世紀、コローやミレーなど、フランスのバルビゾン派の画家たちは、戸外でのスケッチをもとに自然を描きました。彼らは、17 世紀のオランダの風景画を手本にしていました。バルビゾン派の作品から多くを学んだハーグ派の画家たちは、バルビゾン派を通して自国オランダの絵画を再発見したともいえます。オランダ人のヨンキントは、バルビゾン派との関係も深く、双方の架け橋のような存在でした。

ヨハン・バルトルト・ヨンキント(1819-1891)《デルフトの眺め》1844 年　油彩・カンヴァス
ハーグ市立美術館 Collection Gemeentemuseum Den Haag, The Hague, The Netherlands

第２章ーハーグ派

1.風景画

　ハーグ派の画家たちが、最も多く描いたテーマのひとつが風景です。ハーグ派はバルビゾン派にならって自然を観察し、風車、運河、干拓地など、オランダ特有の景観を描きました。広い空と地平線の描写もその特徴で、17 世紀のオランダ黄金時代の絵画と共通しています。

ヴィレム・ルーロフス(1822-1897)《虹》 1875 年 油彩・カンヴァス ハーグ市立美術館
Collection Gemeentemuseum Den Haag, The Hague, The Netherlands

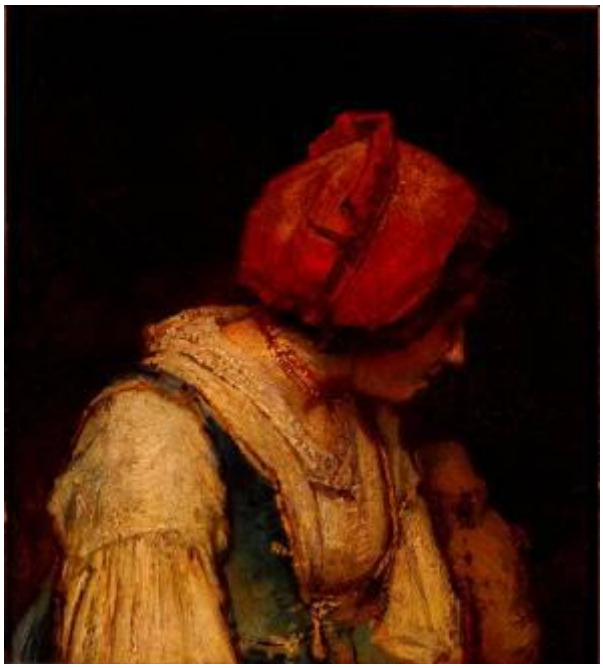
ヴィレム・ルーロフス(1822-1897)《アプカウデ近く、風車のある干拓地の風景》1870 年頃 油彩・カンヴァス
ハーグ市立美術館 Collection Gemeentemuseum Den Haag, The Hague, The Netherlands

ヤン・ヘンドリック・ヴァイセンブルフ（1824-1903）《トレックフリート》1870年油彩・カンヴァス
ハーグ市立美術館 Collection Gemeentemuseum Den Haag, The Hague, The Netherlands

2.大地で働く農民

自然の中でたくましく生きる農民を描いた、バルビゾン派の画家ミレーの影響から、ハーグ派はオランダの風景のほかに、働く農民や漁師の姿をテーマにしました。

ミレーの農民画は大切な手本とされ、画家マタイス・マリスは《種をまく人》を基に版画を制作しています。



マタイス・マリス（1839-1917）《糸を紡ぐ女》油彩・紙 ハーグ市立美術館
Collection Gemeentemuseum Den Haag, The Hague, The Netherlands

マタイス・マリス（1839-1917）《種をまく人（ミレーによる）》1883 年エッチング・紙
ハーグ市立美術館 Collection Gemeentemuseum Den Haag, The Hague, The Netherlands

3.家畜のいる風景

牛や馬など、農民の暮らしに欠くことのできない家畜は、ハーグ派の画家たちの重要なモティーフとなりま

した。それは目の前の風景であると同時に、17 世紀のオランダ絵画の伝統でもありました。

ヘラルト・ビルデルス(1838-1865)《干拓地の風景の中の牝牛(オーステルベーク)》
1857-60 年 油彩・板にカンヴァス ハーグ市立美術館
Collection Gemeentemuseum Den Haag, The Hague, The Netherlands

アントン・マウフェ(1838-1888)《船を引く 4 頭の馬》油彩・板 ハーグ市立美術館
Collection Gemeentemuseum Den Haag, The Hague, The Netherlands

4.室内と生活

何気ない室内の暮らしの情景も、ハーグ派の大切なテーマです。17 世紀のオランダの画家フェルメールや、バルビゾン派のミレーの影響を受け、貧しい階層の女性たちのつましい日常生活が描かれています。

ヨーゼフ・イスラエルス(1824-1911)《日曜の朝》1880 年 油彩・板 ハーグ市立美術館
Collection Gemeentemuseum Den Haag, The Hague, The Netherlands

ベルナルデュス・ヨハネス・ブロンメルス(1845-1914)《室内》1872 年 油彩・カンヴァス
ハーグ市立美術館 Collection Gemeentemuseum Den Haag, The Hague, The Netherlands

5.海景画

ハーグ派の画家たちは、海辺の景観や漁師の生活を数多く描きました。主に森を描いたバルビゾン派は近くに海をもちませんでした。広い空と雲、どこまでも続く水平線を描く海景画は、オランダ・ハーグ派独自の表現といえます。

ヘンドリック・ヴィレム・メスダッハ（1831-1915）《オランダの海岸沿い》1885 年　油彩・カンヴァス
ハーグ市立美術館　Collection Gemeentemuseum Den Haag, The Hague, The Netherlands

ヤコプ・マリス（1837-1899）《漁船》1878 年　油彩・カンヴァス　ハーグ市立美術館
Collection Gemeentemuseum Den Haag, The Hague, The Netherlands

第 3 章－フィンセント・ファン・ゴッホとピート・モンドリアン

オランダ人のゴッホとモンドリアンは、画業の初期にハーグ派とつながりを持っています。ゴッホは 16 歳から 20 歳までハーグの画商で働き、その後ハーグ派の画家マウフェから油絵の描き方を学びました。抽象画家となるモンドリアンも、叔父の影響でハーグ派に接し作品を模写しています。

フィンセント・ファン・ゴッホ（1853-1890）《白い帽子をかぶった農婦の顔》1884-88 年　油彩・カンヴァス
クレラー＝ミュラー美術館　Kröller-Müller Museum, Otterlo, The Netherlands

フィンセント・ファン・ゴッホ（1853-1890）《じゃがいもを掘る 2 人の農婦》1885 年　油彩・カンヴァス
クレラー＝ミュラー美術館　Kröller-Müller Museum, Otterlo, The Netherlands

《オーストザイゼの風車》1907年頃　《夕暮れの風車》1917年頃
ピート・モンドリアン　ハーグ市立美術館